

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-161	24-003	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol and Substance Use Among the Working Age Population: A Nationwide Study of Fall-Related Emergency Department Visits 勤労世代における転倒による救急部受診とアルコールおよび薬物使用の関係		
執筆者		
Bhagavathula AS, Aldhaleei WA.		
掲載誌		
J Stud Alcohol Drugs. 2024 May;85(3):330-338. doi: 10.15288/jsad.23-00330.		
キーワード		PMID
勤労世代、転倒、救急、アルコール、薬物使用		38270911
要 旨		
背景： 高齢者において転倒による救急部受診と飲酒との関連が報告されているが、勤労世代における転倒と飲酒および薬物使用との関連は明らかではない。		
方法： 2019年1月から2021年12月に全米の救急受診データベースにおいて、多変量ロジスティック回帰分析により、15-64歳の転倒と飲酒および薬物使用の調整オッズ比(95%信頼区間)(aOR(95%CI))を算出した。		
結果： 53,822件の救急受診データベースにおいて転倒2,639件が確認された。そのうち飲酒111件および薬物使用101件、両者39件であった。これらの数値から2019-2021年の全米の転倒は10,844,000件で、51.7%が飲酒および薬物使用と関連すると推計された。多変量ロジスティック回帰分析の結果、転倒は飲酒および薬物使用と関連していた(aOR(95%CI):飲酒;2.3(1.0-5.9), 飲酒および薬物使用;8.5(1.6-43.0))。飲酒および薬物使用におけるうつ病合併者の転倒リスクは約2倍であった。		
結論： 転倒は飲酒および薬物使用と関連しており、飲酒および薬物使用にうつ病の合併者のオッズ比は約2倍であった。		